



1. 図書館の使い方【学校図書館指導員】

- ・各学校の図書館の使い方について、学校図書館指導員が1学期の最初の図書の時間にお話します。
内容:貸出・返却の仕方、本の扱い方、図書館での過ごし方などの「きまり」(ルール・約束)

2. 図書館の「きまり」【担任・学校図書館指導員】

- ・分類(NDC)、図書館地図、ラベル(請求記号)、図書館の本の並び方等には「きまり」があることを学年に応じて学習します。この内容は、国語教科書の1～4年生は「図書館へ行こう」、5年生は「情報ノートを作ろう」「新聞を読もう」、6年生は「引用して話そう」に関連させ、学校図書館指導員と一緒に学習を進めます。

内容:

①分類(NDC 日本十進分類法)について

1年生:くご「入門期」から、いろいろなお話を聞かせたり「読み聞かせ」をしたりして、子ども自身が興味を持って本と積極的に触れ合えるようにします。「としょかんへいこう」では、本がたくさんある学校図書館を意識づけ、そこでの使い方や過ごし方を学びます。図書の内容も絵本を中心に説明し、絵本は「E」マークのラベルで絵本の棚に並んでいる事を学びます。

2年生:国語「図書館へ行こう」では、図書館で本を探すための手がかりを学習します。
図書館での子ども達の気づきを大切にしながら、本を探すための大事な手がかり(分類・図書館マップ・いろいろな分野の本の並び方など)を理解させていきます。

3年生:国語「図書館へ行こう」では、手に取った本に知りたい事が載っているかどうか、何を手掛りにして調べたら良いかという事を学習します。「目次」「さくいん」「おくづけ」「前書き」「後書き」等調べる時に役立つ手掛かりがいろいろある事を知らせます。
読んだ本を「読書カード」に記録しておくことも学習します。
「本のつくりをたしかめよう」・・・図や実際の本を見て、本の構造を確かめましょう。又、本には私たちの体と同じように各部に名前があることがわかります。その名前を知る事も、本を大事に扱ったり本に親しみを持たせたりするためには有効です。

本の各部の名前 (教科書の図に出ている箇所)

天(てん)、地(ち)、小口(こぐち)、のど、表紙(ひょうし)、扉(とびら)、見返し(みかえし)
しおり、背(せ)、帯(おび)、カバー、 (本の図省略 教科書P49参照)

4年生:国語「図書館へ行こう」で、図書館の本は、「日本十進分類法」(NDC)によって分けられ整理されている事を学習します。ラベルに内容の分類や著者名等の情報を示す請求記号が書かれていて、本を探す手掛かりになります。どの本にもこのラベルが貼られています。

□ ラベルの記号(請求記号ともいう。)

486	← 分類記号 4(自然科学)－8(動物)－9(哺乳類)
や	← 図書記号(作者・著者名等の最初の一文字、中学はカタカナ表示)
1	← 巻冊記号(全集やシリーズなどの巻数)

借りた本を返す時の手がかりになるのもラベルの請求記号です。学年に応じて、分類とラベルの関係や本棚との関係について学習しましょう。

□ 自校の図書館の分類の仕方やラベルの記号(請求記号)を確かめてみましょう。

5年生:『「情報ノート」を作ろう』では、興味をもった情報とともに、その時考えたり調べたりした事を「情報ノート」に書きためていき、意見文などを書く時に役立てる事や「情報ノート」の書き方、書く時の視点等を学習します。本から情報を探す時には、「日本十進分類法」(本が分類・整理されている)を参考にすると良い事を、国語の教科書のNDCの表などから再度確認します。

6年生:「引用して話そう」では、引用の定義を確認し、本や新聞・雑誌などから心に残った文章・言葉・図・写真などを引用して話す(書く)時の、引用の仕方や出典の示し方を学びます。6年生にもなると、本や新聞、インターネットなどから知り得た情報を使って物事を説明したり書いたりする機会が増えてくると考えられますので、引用の学習はきちんとしておきたいところです。

②図書館地図(図書館マップ)について

分類ごとに図書館の本が整理されており、図書館のどこの棚がどの分類の本棚かを示す案内地図(図書館地図)が各学校の図書館にはあります。読みたい本が何類の本かがわかれば図書館地図で棚の位置を調べて本を探すことができます。このことは低学年から知っておきたい事です。

③ラベルについて

4年生の国語の「図書館へ行こう」で学習しますが、借りた本を返す時の手がかりになるのがラベルの請求記号です。学年に応じて、分類とラベルの表示の関係や本棚との関係について「図書の時間」に学習します。

3. 資料利用指導【担任・学校図書館指導員】

・学年に応じて図鑑、百科事典、国語辞典、漢字辞典、年鑑、新聞等の使い方を学習します。

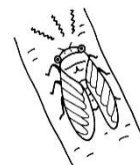
①図鑑

【2年生】「図書館へ行こうー図書館で本をさがそう」では、アリの調べるには「昆虫図鑑でもいいのかな」と話している子がいます。2学期には「生きもののことをせつめいしよう」で、図鑑や本を使用し調べる学習がありますが、その前に生活科等の学習で、観察した植物等を調べたいので図鑑を使いたいと依頼された時は是非教えてやりましょう。

【3年生】「図書館へ行こうー本で調べよう」では、図鑑の使い方を学びます。「生き物のとくちょうをくらべて書こう」では、図鑑や事典等を使って生き物の特徴を調べ、それを文章に書く学習をします。図鑑の使い方をしっかり学習して自分で調べる力をつけておくと、学習がスムーズに進められます。

〈めあて〉

- ・「さくいん」「目次」を使って調べる事ができる。(2～3年)
- ・「さくいん」「目次」を使って調べ、必要な部分を正しく抜き出すことができる。(2～3年)
- ・文章の要点をとらえたり調べた事を要約したりして書く事ができる。(3～4年)



②百科事典

わからない事、知りたい事を調べる時に最初に手にしてほしいのが「百科事典」です。使い方は図鑑と似ていますが、調べる内容の頭文字で巻ごとに分かれています。様々な学習の中で百科事典を活用する機会をつくり、百科事典の使い方を習得し習慣化したいものです。

〈めあて〉

- ・調べたい事柄のある巻を選び、「さくいん」「目次」を使って調べる事ができる。(2～3年)
- ・調べた事柄について説明している部分を書き出すことができる。(2年～3年)
- ・調べた事柄について必要な部分を要約して書くことができる。(3年～4年)
- ・奥付の意味、引用のルールを理解して書き表すことができる。(3～6年)※奥付は3年で、引用の示し方6年で学習



③国語辞典(3年) 漢字辞典(4年)

国語科の学習単元にそれぞれの使い方の学習があります。図書館には同じ辞典が揃っているのです、クラス全員で使い方の学習ができます。使い方がわかれば、どの教科の学習でもわからない言葉や知りたい事があった時には使う事ができます。進んで調べる事ができる技量と意欲を持たせたいものです。国語辞典は、調べたい事を知る第一歩です。辞書引きの練習をしてたくさんの言葉を素早く引けるようになると、学習の効率も良くなります。

漢字辞典では、「部首索引」「音訓索引」「総画索引」の3つの索引を利用して引く事を学習します。辞典を引く事で漢字のおもしろさにも気づくことができます。

④地図

3年生の社会科では、地図記号や地域の地図にふれ、4年生の社会科では地図帳を活用します。図書館には色々な描かれ方をした地図帳が置いてあります。子ども達には、自分の興味・関心や学習に合わせて色々な地図帳を使ってみる事をすすめましょう。図書館では各種の新しい地図を用意しましょう。

⑤年鑑

5年生の産業や国土の学習で、初めて年鑑を手にする子ども達が多いと考えられます。まず、年鑑の種類や特性、構成(統計編・学習編)などを学びます。統計編には、日本や世界の統計、都道府県や世界の国々の様子が、学習編には1年間の主な出来事が記載されており、調べ学習に有効です。図鑑や百科事典同様に、「目次」や「さくいん」を使って調べる事を理解させ、早く正しく調べる力を身に付けさせましょう。そして、学習に積極的に役立てようとする意欲を高めましょう。



⑥新聞

5年生国語教科書「新聞を読もう」では、新聞の特徴、記事の構成、記事の掲載の仕方、記事の読み比べが取り上げられています。学校図書館でも「子ども新聞」をとり、子ども達に新聞を読む機会を経験させています。新聞の特徴や内容・良さを話し合わせましょう。また、新聞の情報を色々な学習に役立てるための活用の仕方も学びましょう。

図書館には様々な学習に使う事のできる資料があります。しかし、その資料をどのように使うのかを知らないと使えません。子ども達の発達段階・理解度に合わせて「本・資料の使い方」を知り、使えるように繰り返し学ぶことが大切です。

国語の教科書の中で、資料の利用指導については学習内容として組み込まれています。子ども達が自分で本や資料を使って学習する「技」を身につける事は、自ら学ぶ力をつける事につながります。

小学校6年間で身につけた「自ら学ぶ力」は、中学、高校・・・生涯の学習に通じる基礎となることでしょう。

4. 著作権・資料の情報の記録【担任・学校図書館指導員】

※著作権・情報に関しては、柏市学校図書館運営マニュアルの「情報モラルと著作権」のページを参考にしてください。

また、マニュアルの資料4の「情報・メディアを活用する学び方の指導体系表」(2004. 4. 1. 全国学校図書館協議会制定)には、Ⅰ学習と情報メディア、Ⅱ学習に役立つメディアの使い方、Ⅲ情報の活用の仕方、Ⅳ学習結果のまとめ方が、低・中・高・中学校に分かれて掲載されていますので、それも参考に学習をすすめてください。

5～6年生の国語科には、「情報ノートを作ろう」や「引用して話そう」の学習が取り上げられています。調べ学習の機会は1年生からあります。普段から、学年の子ども達の理解度に合わせて著作権について考えたり、資料の情報を記録したりする学習が大切です。

学年別 調べ学習シート記載内容例

低学年	中学年	高学年
<p>～本の表紙(裏表紙)を見て～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べた内容(絵・文) ★全文を正しく抜き書きする (できる) ・使った本の題名 ・調べたページ <p>・課題に応じてメディアを利用する</p>	<p>～奥付の見方を知る～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べた内容(文) ★必要な情報を選んで抜き書きする (できる) ★内容を要約して書く ・本(資料)の題名(書名) ・調べたページ ・著者名 ・発行所、出版社 ・発行年 <p>・課題に応じてメディアを利用する</p>	<p>～インターネットの正しい使い方を知る～</p> <ul style="list-style-type: none"> ★信用できるサイトを選ぶ ★情報モラルを守る ・本(資料)の題名(書名) ・調べたページ ・著者名 ・発行所、出版社 ・発行年 ・ホームページアドレス ・サイト名 ・アクセスした日

※下記の(例)「調べ学習シート」は、従来から各校で使われている「調べ学習シート」に、A. (ページ)、インターネットを使用した場合の記載事項を書き加えました。

(例) **調べ学習シート** No.() ()年 ()組 氏名

Q.

A. (ページ)

書名 ※	著者名 ※	出版出(発行所)	発行年(最新)

★インターネットを使用した場合

・サイト名:

・ホームページアドレス:

・アクセスした日:

※小学1・2年生は、奥付けを見て資料の情報を知る等の学習をしていませんから、本の表紙(裏表紙)を見て書名や著者名を書くといでしょう。